

16. ^{99m}Tc -PMTによるHepatoma転移巣の検索(その2)
—骨スキャン, ガリウムスキャンとの比較
検討—

伊藤 清信 外山 宏 竹内 昭
富田 和美 鶴飼起久子 古賀 佑彦
(保衛大・放)
前田 寿登 江尻 和隆 (同・診放技)
加藤 幸彦 清水 和弥 榊原 英二
(同・放部)

hepatoma 転移巣の検索に ^{99m}Tc -PMT, ^{99m}Tc -MDP
骨, ^{67}Ga による全身シンチグラフィーを施行し, 6 症
例 30 病巣について比較検討した。

^{99m}Tc -PMT シンチグラフィーは骨, ^{67}Ga シンチグラ
フィーと比べ, 検出率に優れており, hepatoma 転移巣
検索に有用であると思われる。

検出率の差は, ^{67}Ga は background による影響, 骨
シンチは turnover の低い bone metastasis 等が関与し
ていると思われる。

PMT に関しては, background との重なりにより検
出されないことがある。

17. ^{99m}Tc -DMSA 腎シンチグラフィーによる術前腎機
能評価—腎部分切除術を施行した腎機能低下患者
の 2 例—

日置 琢一 桜井 正樹 奥野 利幸
加藤 貴裕 川村 寿一 (三重大・泌)
北野外紀雄 (同・中放)

反対側腎に腎機能障害を有する腎細胞癌症例で, 拡大
腎摘出術を施行すると腎不全をひき起こすと考えられた
2 例を経験した。この 2 例に対し術前に ^{99m}Tc -DMSA
腎シンチグラフィーを施行し, 部分切除後残存すると考
えられる腎部に関心領域を置いてその腎摂取率から術後
残存腎機能を予測した後, 腎部分切除術を施行した。そ
の結果, 術後 1 か月の時点では腎摂取率予測値が実測値
を上回ったが, 術後 3 か月以上においては実測値の 10%
以内の誤差で予測でき, 腎不全を回避しえた。

^{99m}Tc -DMSA 腎シンチグラフィーは術前腎機能評価
に有用であると思われる。

18. ^{99m}Tc -HM-PAO による原発性肺癌の検出について
—病理との対比—

大島 統男 伊藤 健吾 岡江 俊治
田所 匡典 佐久間貞行 (名大・放)
児玉 行弘 (小牧市民病院・放)

年齢 38~82 歳 (平均 66 歳) の原発性肺癌 17 例に対し
 ^{99m}Tc -HM-PAO (HM-PAO) を施行した。HM-PAO の
集積パターンは homogeneous, heterogeneous および
defect であり, 癌の組織型とは相関を認めなかった。手
術にて摘出可能であった 5 例の肺癌と HM-PAO の集積
パターンとの対比では, HM-PAO で defect, ^{67}Ga では陽
性を示した 2 例では, 腫瘍組織はほとんど necrosis によ
りおき変わっていた。また HM-PAO で homogeneous,
 ^{67}Ga でも陽性を示した 3 例では, 腫瘍組織は viable な
腫瘍で necrosis を認めなかった。このように ^{99m}Tc -
HM-PAO は腫瘍が血流に富んでいるか否かを知ることが
でき, 放射線治療, 化学療法, 温熱療法など治療法の
選択の際, 参考となり得る。

19. TI-201 SPECT による胸部 X 線異常陰影の質的
診断

利波 紀久 秀毛 範至 横山 邦彦
絹谷 清剛 松成 一朗 滝 鈴佳
瀬戸 幹人 滝 淳一 渡辺 直人
道岸 隆敏 油野 民雄 久田 欣一
(金沢大・核)
渡辺 洋宇 (同・一外)
関 宏恭 (金沢医大・放)
高山 輝彦 (金沢大・医短)

肺癌が疑われた 54 例に TI-201 chloride を 8~10 mCi
静注し 15 分後 (Early scan) と 3 時間後 (Delayed scan)
に SPECT を施行した。原発性肺癌 40 例を含む肺悪性腫
瘍 44 例のうち 43 例に異常集積を認めた。良性病巣 10 例
中 7 例には異常集積は認められず, 集積を認めた 3 例で
は Delayed scan の病巣/対側健常肺摂取比や病巣の集
積停滞 Index で悪性腫瘍との鑑別の可能性が示唆され
た。また, これらの指標は原発性肺癌の組織型において
異なった傾向を示した。